

コロナ禍で消えそうになった話題提供

2021年6月12日(土) 札幌市手稲区 原田 和彦

1、初めての話題提供

ボラレンのメンバーでありながら手稲在住なので野幌森林公園で行われる観察会には中々出られない。それでも以前は、1年に1度くらいは参加していたのが歳のせいもあって参加ゼロの年が続いている。そんなところへ、小林副会長から、「話題提供」の話があって9月4日の下見時の分を引き受けた。初めての話題提供でどんな話をしてよいかいろいろ迷ったが、身近な植物の話がよかろうと考え、「セイヨウタンポポとブタナ」の話に決めた。これは当日話をする予定だったもので、資料は当日お渡しする予定だったもの。

2、「新・北海道の花」のブタナに関する記述のこと

図鑑「新・北海道の花」は、植物観察のガイドする人間にとっては大事なバイブルである。ただ、ブタナに関する記述については気になる場所があった。「しばらくタンポポモドキとも呼ばれていたが、この名はすでに他の植物に使われているので、別名として使用すべきでない」となっている。

タンポポモドキという別種はどんな花なのか、いろいろ図鑑を調べたがどこにも載っていない。

3、ブタナの命名のこと

ブタナは帰化植物、「日本の帰化植物（平凡社）」という図鑑によれば、最初に発見されたのは札幌で、伊藤浩司氏によってタンポポモドキと命名された。翌年同じものが神戸でも発見されて、北村四郎氏によってブタナと命名され、ブタナのほうが標準和名になっている。

北村四郎氏は京都大学の名誉教授で植物学会の重鎮であるのに対して、札幌の伊藤浩司氏は無名の研究者だったので命名者にはなれなかったらしい。

ブタナはフランスなどで「豚のサラダ」と呼ばれていたといい、それでブタナの名がついたといわれる。学名の場合は命名規約があって、「先取権」で先に命名した者に命名権があるとされるが、標準和名にはそういうルールはないので、学会の偉い先生の方が優先されるようだ。ちなみに、伊藤浩司氏はネットの検索でも中々ヒットしないが、北海道植物友の会で平成6年に「北海道の植物分布」という講演をしていて、友の会の初代会長でもあるという。

4、セイヨウタンポポとブタナの戸籍調べ

- ・セイヨウタンポポ：タンポポ属。同属の自生種：エゾタンポポ。
- ・ブタナ：エゾコウゾリナ属。同属の自生種：エゾコウゾリナ。アポイ岳の固有種で絶滅危惧種でもある。同属でありながら、片や繁殖力旺盛な「要注意外来生物」、片や「絶滅危惧種」。

5、セイヨウタンポポとブタナの相違点

- ①、葉：鋸歯の在り方や毛の様子。
- ②、莖：枝分かれするか、しないかの違い。中空か中実かという違い、それと色の違い。
- ③、果実：何れもキク科で萼由来の冠毛がつき、冠毛と種子をつなぐ果嘴（かし）がつく共通点をもつ。

但し、セイヨウタンポポの冠毛が直毛状であるのに対して、ブタナの冠毛は羽毛状（枝分かれする）という違いがある。

くついでに>果嘴をもつ冠毛の例：直毛状のノゲシ型と冠毛状のアザミ型。

6、帰化植物も立派な観察対象：身近に観察出来る植物には帰化種が多く、これを除外する手はない。

セイヨウタンポポ と ブタナ : 話題提供・資料

1、属と同属自生種

セイヨウタンポポ

ブタナ

タンポポ属
エゾタンポポ



エゾコウゾリナ属
エゾコウゾリナ



2、葉：鋸歯と毛

写真：下
鋸歯：鋭い
毛：寝た毛、少ない



写真：上
鋸歯：鈍い(丸い)
毛：立った毛、多い

3、茎

写真1：下
枝分かれ：しない
写真2：右
中空、赤み

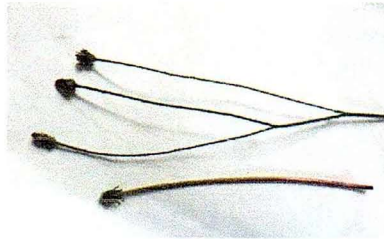


写真1：上
枝分かれ：する
写真2：左
中空、緑色

4、果実

果嘴あり
冠毛：直毛状



果嘴あり
冠毛：羽毛状

タンポポ型

ブタナ型

< 仲間の果実 > 果嘴なしのタイプ

果嘴なし
冠毛：直毛状



果嘴なし
冠毛：羽毛状

アザミ型

アザミ型